大鹿村の山

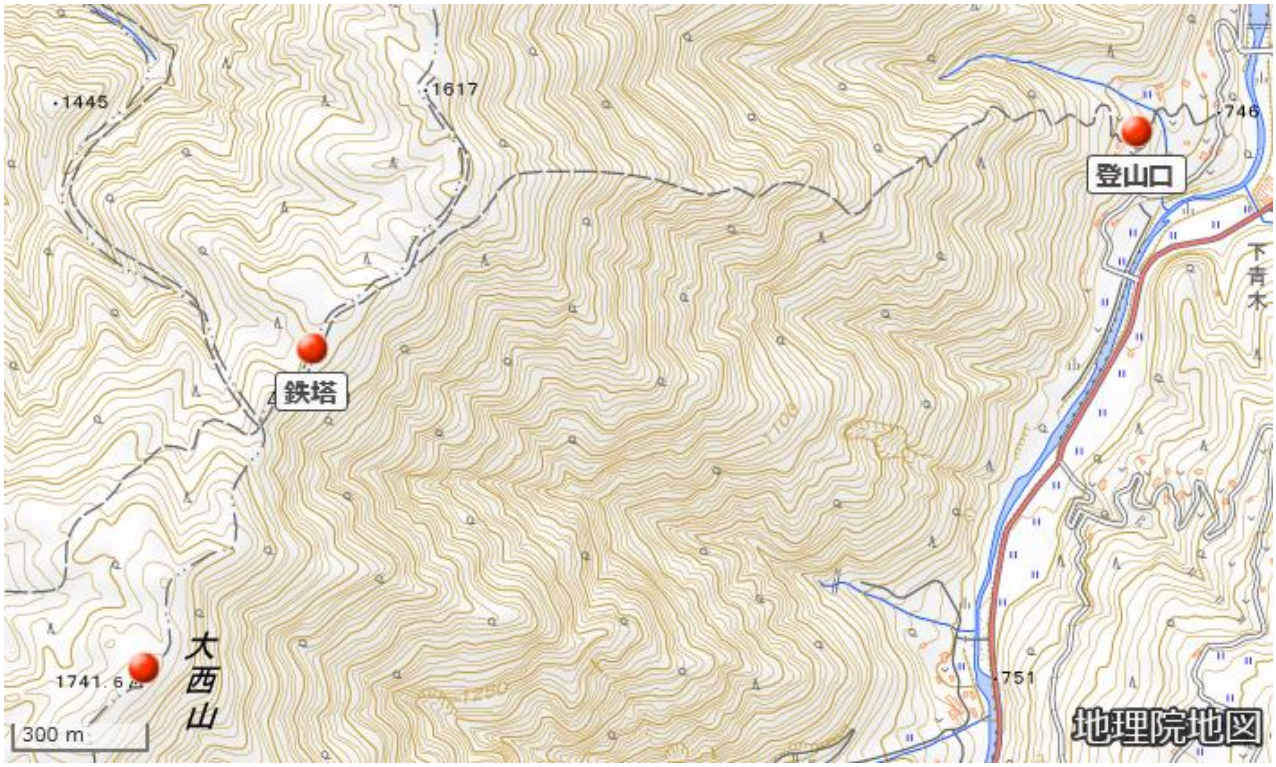
大西山
鬼面山
塩川登山道
北条坂
越路
小渋川ルート

宗像　充（大鹿の十年先を変える会）

大西山

2022 年 4 月 7 日(晴れ)

12:30 登山口―13:30 尾根上―15:05 大西山山頂―16:30 登山口



大西山は南アルプス主脈を除いて、大鹿村の代表的な山であり、伊那山地の主要なピークだ。大河原の中心部からも近く、登山ガイドにも紹介されているが、近年は手入れをされないまま登山道は荒廃が進んでいる。

登山口は、青木地区の上部のイチゴのビニールハウスの脇から登ることができる。車はビニールハウス横の廃屋の前に置くことができる。

ビニールハウス付近から登っていくと、最初は通常の登山道だが、登るごとに倒木などが出てくる。山頂までの距離を示す標識も設置されているが、一度抜けたものを刺しなおしたものもあるようで、方向が逆になっているものもある。

主脈に上がるまでの道は、特に上部は落ち葉に覆われているところが多くなり、斜面も急なため、道がわかりにくくなっているところも少なくない。崩壊個所はさほどないものの、この落ち葉を除去しないと道が切れ落ちているように見えるところもあり、危険を感じる部分もある。

稜線に上がると昨年まではなかった、リニア送電鉄塔の建設のためのモノレールが現れる。また、モノレール設置以前から、稜線部分の道がわかりにくくなっているところがあり、道迷いの原因にもなる。現在はモノレールがあるためそれをたどれば迷うことはないが、逆に登山道がモノレール軌道に遮られている部分がある。工事事務所の付近は「立入禁止」の表示が

立てられているため、登山者から見ると事実上通行止めになっている。

稜線の登山道上には工事事務所の建物と鉄塔が建設されており、工事事務所付近はロープで囲われているため、登山者は中に入らなければそれ以上進めない。一帯の樹木伐採や景観破壊とともに登山者のことを考慮しない工事の仕方となっている。

山頂は標識も目立ったものもなく、眺望もないため、眺望が唯一得られる付近での工事現場化は、ガイドマップにも載っている山なので、早急に手を打つ必要がある。

下山時は、稜線から東面の登山道に入り込むところがわかりにくく、何らかの措置が必要。

課題）

・落ち葉、倒木撤去による登山道の見える化

・標識の整理、道迷い措置への対処

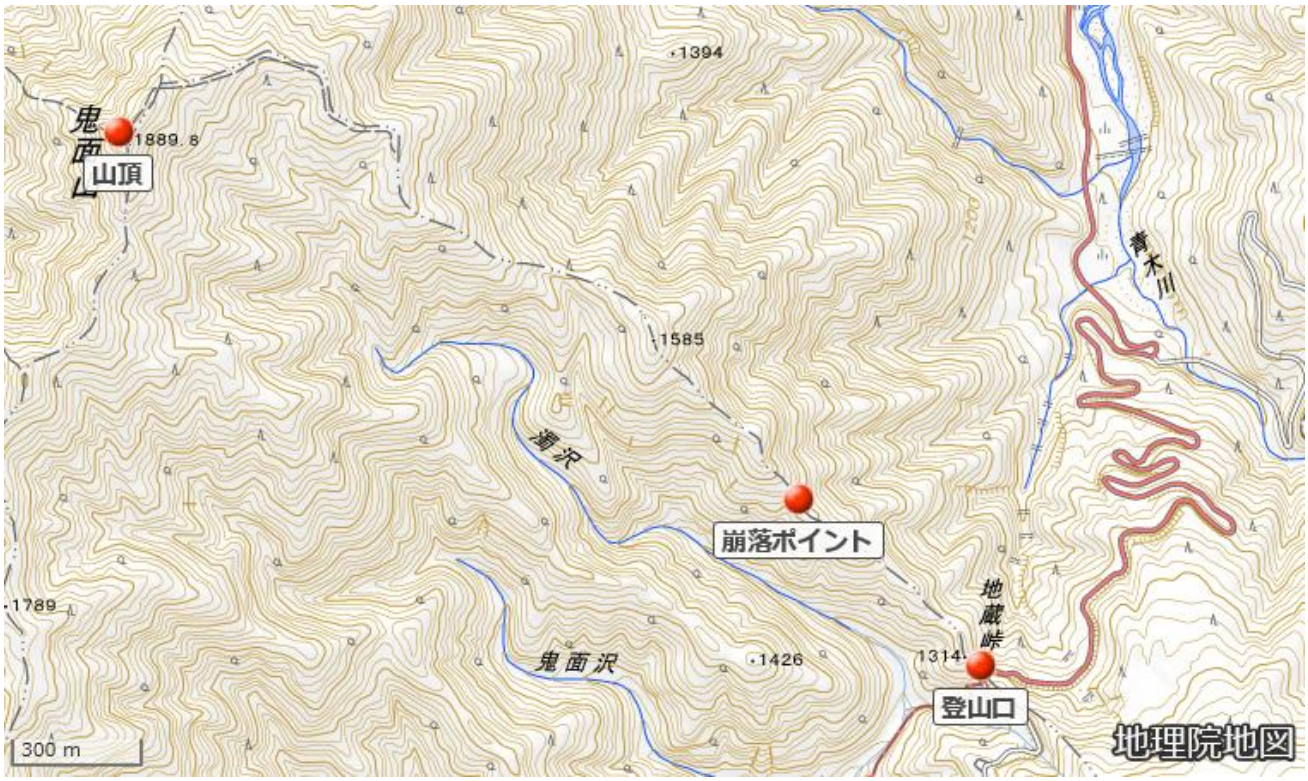
・稜線部分の登山道の確保、森林の再生、工事に伴う建設物の撤去、及び大鹿村名義の看板への適切な対処（村が自然破壊を推進していると登山者は受け取る）

・絵地図はあるのでガイドマップ化は可能

鬼面山

2022 年 4 月12日(晴れ)

8:80 安康ゲート―9:10 地蔵峠―11:00 山頂 11:40―12:40 地蔵峠 12:45―12:55 ゲート



鬼面山は日本 200 名山であるため、大鹿村の中でも南アルプス主脈を除いては登山者の多い山の一つと思われる。他の山が二児山を除いては登山時間が長く、また鬼面山の他の登山道も登山時間が長いため、地蔵峠からの登山口は大鹿村内の山の中では登られているほうだと考えられる。

地蔵峠からは、先年の豪雨による崩壊によって現在安康露頭から先の通行止めが続いている。今回自転車で登ったものの、実際は地蔵峠まで車で入っても問題ないものと思われる。

ただし、地蔵峠付近は駐車スペースが限られている。

地蔵峠から杉林の中を登り始めるとやがて右

側が切れ落ちている部分が出てくる。ロープ等が張られ、注意して登れば問題ないと思われるが、危険部分であることにはかわりない。稜線はブナ等の大木があり、落葉広葉樹の森林帯であるため、心和むものがある。一方で、山頂に向けての上りの部分には、登山道が不明瞭な部分もある。

山頂にはかつて展望台が組まれていたが現在はなくなっている。登山者ノートがポストに入っているが、ノートは濡れている。展望はよいため、山頂の整備をすればもう少し人気が出る可能性はある。

下りはやはり切れ落ちている部分でところどころロープを握って下り、慎重に足を運ぶ必要がある。事故も起きているので、どの程度手を入れるかは課題。

課題）

・地蔵峠の車寄せ、通行止めの解除

・崩落個所の整備の程度、不明瞭個所の整備

・山頂の整備

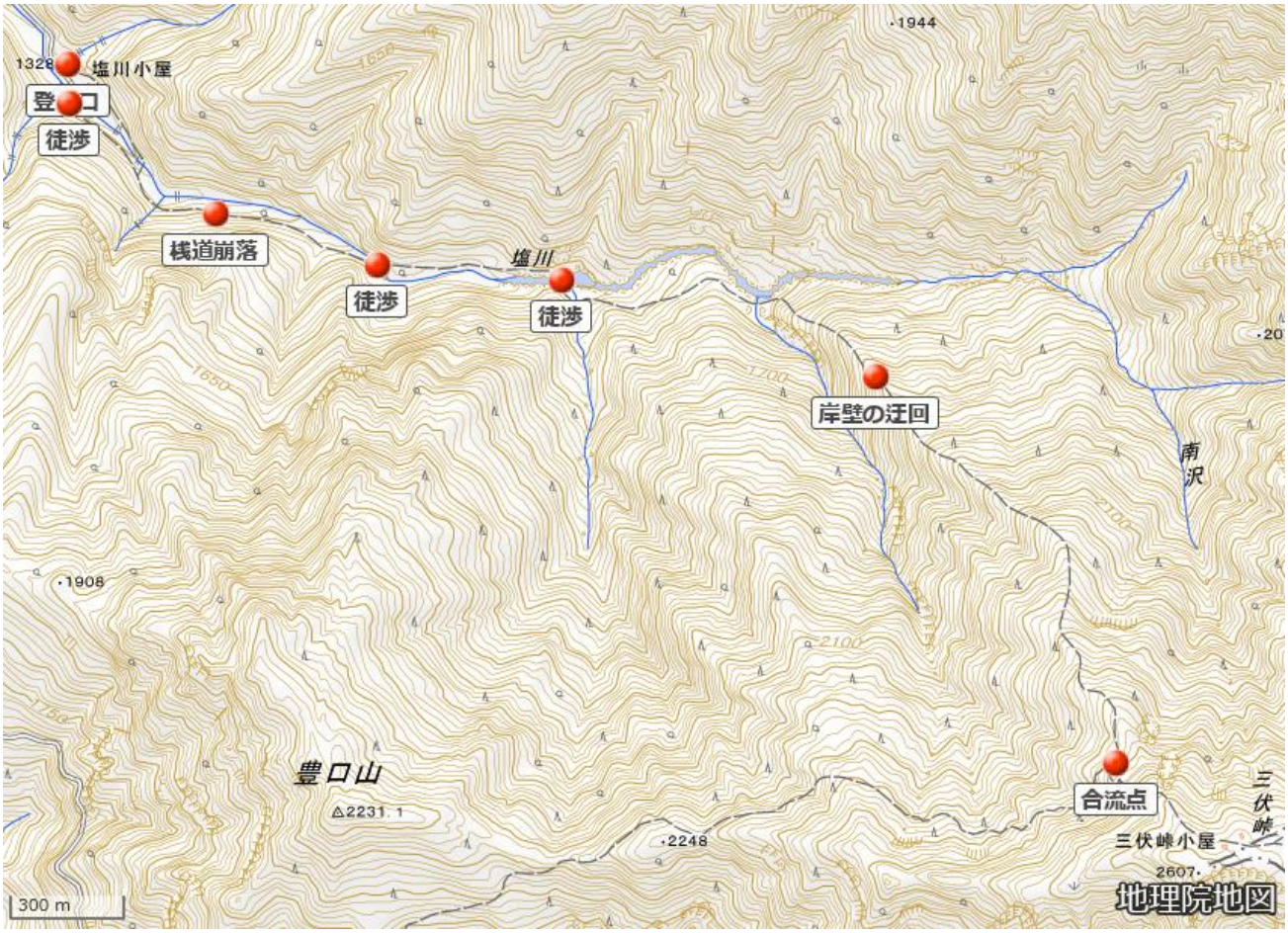
・大西山への登山道や国道１５２号線歩道部分とつないだモデルプランの提示

・絵地図はあるのでガイドマップは可能

塩川登山道

2022 年 4 月 24 日(晴れ)

6:55 樺沢ゲートー7:25 塩川小屋―8:30 尾根取付―11:30 鳥倉登山道合流点―13:05 尾根取り付き―14:10 塩川小屋



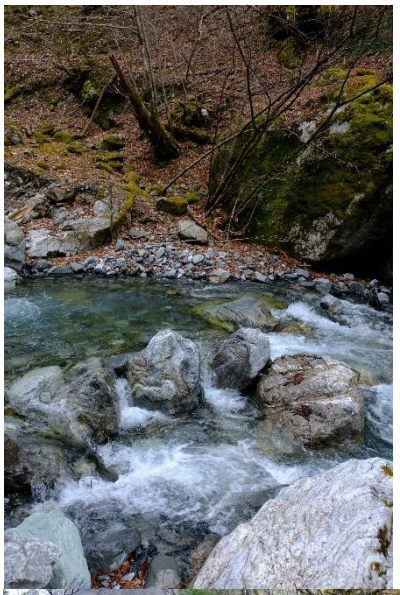
塩川登山道は、三伏峠に至る代表的な登山道だったが、アプローチの林道が崩落し、復旧に時間がかかったため、上部の登山道の荒廃が進

んだ。渓谷一帯は景勝地でもあるため、登山道の復活が望まれる。

樺沢のゲートから塩川小屋までの林道は復旧している。落石があるものの除去すれば車も通行できる。ただし上部からの落石は避けられないので一般車の通行は制限したほうがよい。今回は自転車で塩川小屋まで入った。

塩川小屋は外から見た限りでは営業の復活も可能に思えた。広場は快適なのでキャンプ適地でもある。

小屋から対岸の登山道に入る鉄の橋が流され



ている。その後の登山道はところどころ支沢で崩落している以外は、歩くことは可能。ただし踏み跡は薄くなっているので既存のペナントを追っていく。

　桟道か所の木

道が崩落しているので登山道とするには手を入れる必要がある。またその後２カ所の徒渉ポイントはいずれも橋が落ちている。二番目と三番目の徒渉ポイントの間、右岸の登山道の上部斜面が崩落していて、倒木や落石に道が遮られている。三番目の徒渉ポイントは倒

木の上を伝い対岸の尾根登山道の取り付きに着く。

　尾根は右側から登っていく道が続いている。それまであったペナントが尾根上には一切ないので、道を探しながら標高を上げる。それまでは豊かだった植生も植林になり、つらいだけの道になる。

　国土地理院地形図では、尾根をそのまま登ることになっているが、途中左のほうにトラバー

スすると、上部の岸壁を巻くことができる。トラバースの後は植林の中の九十九折れの道となるがペナントはなく、踏み跡も薄い。ただ右の尾根に戻るとその後はほとんど踏み跡のない中

急坂で標高を上げていくと、鳥倉登山道からの登山道に合流する。

帰りも道が薄いため、現状ではコンパスワークがある程度必要になる。この尾根道は九十九折れの部分以外は急坂なので、ペナントを打て

ば道は明瞭になるものの、疲れているところに下りるとすると注意が必要。

課題）

・３つの橋と桟道は修繕するか徒渉させるルートとするか決めなければならない

・がけ崩れ個所も同様

・滝や巨木も多く景勝地なので周遊的なコースにすることも可能

・三伏峠への登山、下山時の登山者の誘導をどうするか決めなければならない（上級者向けとするか積極的に誘導するか）

・尾根道はペナントを打てば道は明瞭になると思うが、急坂が続くので、どの程度道を整備するかを決めなければならない

・塩川の広場はキャンプブームにおいて絶好の場所なのでもったいない

北条坂

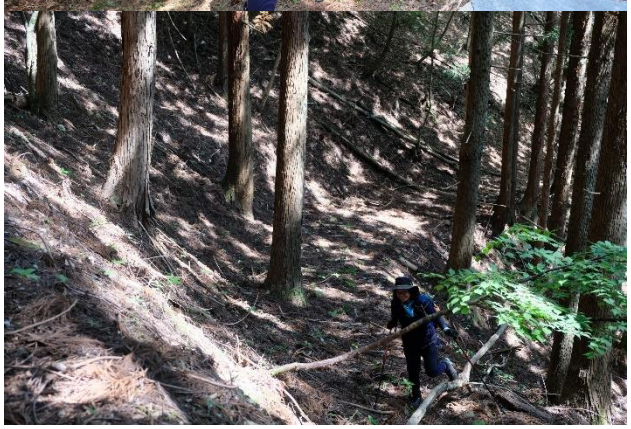
2022 年5月 24 日

8:50 桶谷―9:50 北条峠―11:50 林道―12:05 峠

北条坂は岩洞、小渋線が開通するまでの大鹿村と生田の主要な往還道である。

小渋ダムの排砂トンネルの入口付近、工事事務所のあるところがかつての北条一門の桶谷集落跡である。秋葉権現の碑から杉林の中に入ると、集合墓地がある。

上部の林を見上げるとところどころ石垣が残っていて、これが九十九折れの北条坂の跡である。石垣のところまで斜面を登ると、石垣跡には半間程度の道幅がある。倒木や崩落でだいぶ



荒れてはいるものの、よく見れば道が続いているのでたどることができる。

九十九折れの最初の部分で建物が見え、それが桶谷の山の神であり、その左脇に北条時行の墓碑がある。ちょうど、工事事務所の真上付近に位置的にはなる。

九十九折れの道をたどっていくと、馬頭観音などの碑がある北条峠に着く。ここまでは道が荒れているほかは危険個所はない。また道中道標があるのはここだけである（道標はすべて撤去され、生田東小ほか１か所にまとめられている）。

ここから先、切通しを過ぎると道は小渋湖のバックウォーターや、岩洞のヘアピンカーブなどが見えてくるようになり、気分がいい。ただ

道はずっとトラバース的に峠まで続くため、右側の斜面が崩落によって切れ落ちている部分が少なくない。

特に支沢の部分は道が判然としない程度に切れ落ちていて、山慣れない人にとってはロープが欲しいところだ。尾根の部分はかつての道が

しっかり残っているところもあり、そういう部分は気分もよく、休憩するにも適地になっている。切れ落ちているところ、道が残っているところ交代で登場すると、最終的に沢に出て、林道に出る。ここから林道を歩いて、炭焼き釜を過ぎるとゲートを開けて峠に出る。

課題）

・歴史ある道だが、登山道ではないので、人を呼び込むならどのように打ち出すか決めなければならない

・ところどころ危険個所もあるが全体的に気分のいい道なので、整備すれば人気のルートになる可能性はある

・現状では一般人を案内するには、ロープを扱える人がガイドする必要がある。

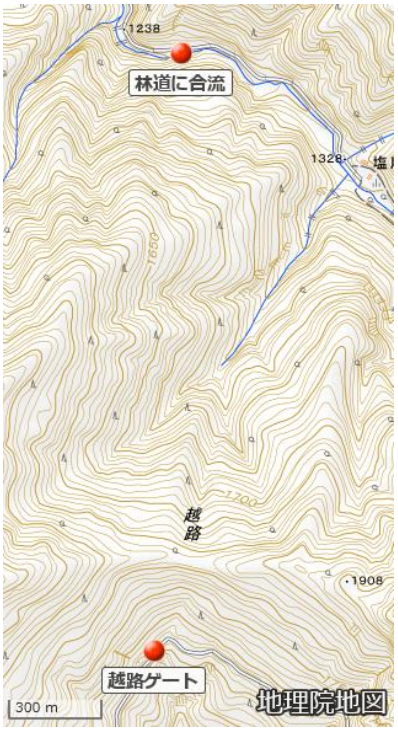
・一帯は民有地であり、キノコ山でもあるようなので、どの程度整備するか、いつ人を入れるか、調整が必要

・桶谷集落跡や北条時行の墓碑などは、観光資源として保存する価値がある

越路

2022 年5月 30 日

8:50 越路ゲートー8:35 越路ゲートー9:50 塩川林道—10:40 樺沢ゲート



越路は宗良親王が塩をとりに往来したという歴史ある道だが、近年は通ることもないため踏査した。

鳥倉林道の車止めから林内に入ると、右上へと越路に伸びる踏み跡がうっすらと見えるのでそれをたどる。ところどころわかりにくい部分もあるが、倒木もさほどではなくペナントを打てば道も踏まれてくるだろうと予想がつく。

右手にコルを目指せば越路に着く。ここからシダの谷間を下りていく。造林作業が入っているため踏み跡もところどころある。造林作業の整備が入っていたため、越路から左手の尾根を下りた（林野庁の地図では右の尾根に下る道が塩川小屋まで続いている。

途中岩場らしいところが出てきて、そこを下ると沢の流れが出てきたが、沢を下るのは不安があったため、コンパスを北に合わせトラバース気味に左手の斜面に入り、最終的に塩川小屋の下流の林道に出た。危険個所はないが、どこを下るかは自分で決めなければならず頭を使う。ところどころ獣道らしいものもあるのでどこでも下ることができるからだ。塩川小屋から見ると九十九折れの道がうっすらと見えるので、本来の道はそちらかもしれない。

課題）

・越路までは踏み跡がたどれるのでペナントを打ち倒木を撤去すればかなり明瞭になると思われる

・越路からの下りを塩川小屋から登り返すなりして確定して整備すれば、歴史ある道として復活すると思われる

・周辺の登山道とどのように関連付けるかが課題になる（塩川小屋に車を置き塩川ルートを登って鳥倉登山道に下山。越路を経て塩川に戻るなど）

小渋川ルート

2022 年 7 月 13 日(晴れ)5:00 三正坊―6:00 湯折―6:35 七釜橋―8:45 広河原小屋 9:05―10:302000m10:40―13:30 大聖平―15:30 赤石岳避難小屋
7 月 14 日(曇り)4:50 赤石岳避難小屋発―6:00 大聖平―7:20 林班標識 7:30―8:30 広河原小屋―10:00 七釜橋―11:40 三正坊

7 月 13 日　先年の豪雨で湯折までの道が不通になり、登山者がほぼ来ることがなくなっているものの七釜橋付近までは猟師やキノコ採りなど村の人が入っている。崩落した２カ所の林道

は、倒木が撤去されている。１カ所目は崩落個所の中をトラバースし、その後いったん残った林道に出て、その後は崩落個所の上部の林内をたどる。

もう１カ所は崩落個所は高度感もあり踏み外すと谷底まで落ちるので、かなり緊張する。林道内は支沢が押し出して土砂に埋まっている個所もあり、七釜橋の手前は林道が落ちて幅が半分になっているが、なんとか通過することができる。

現在七釜橋の上流から河原に下りる個所が崩落しているため、河原に下りるには七釜橋の下流側からになる。橋をくぐると河原に出る。数年前までは護岸のコンクリートブロックの上をしばらく上流までたどれたが、現在は埋まっている。

徒渉は経験があれば 10 回ほどですむ。水量はひざ下が大部分だが、水勢が強いので水量が多い場合は緊張する。高山の滝の下流部がゴルジュ状になっていて徒渉で膝上の部分が出てくる。この部分は左岸側をなるべくトレースすると徒渉が少なくてすむ。

荒川岳の擁壁を望むとしばらくして広河原小屋。以前は入口の標識があったが現在はなくなっていて、福川が流れ込むのが目印。

広河原小屋は宿泊には問題ないが人が入らないのでゴミが溜まり気味だ。

広河原小屋から上部、沢沿いのコケの道をたどり、右手の大木にペナントがつけてあるところから引き返すように尾根に上がっていく道が

ある。最初の部分が急だが、以前はもっと上からトラバース道に入っていったようだ。

トラバース道もその後の尾根道も踏み跡は明瞭だが倒木が出てきて、倒木に道が阻まれて先が分りにくくなっているところが船窪付近まで続く。古い梯子なども途中かかっているが、い

つ設置されたものか不明なので、チェックが必要。倒木はかなり大量であり、大木が倒れているところでは、身をかがめてくぐったり、上を乗越していくところもあり、体力を消耗する。

幕営地可能な場所は、船窪の手前の尾根の脇に２カ所ほど適地がある。

船窪から先、大聖寺平までのトラバース道は、途中崩落個所が出てきくる付近からかなりハイマツなど灌木に覆われわかりにくくなっている。今回うるさいくらいペナントを打ったが、それでもはじめてくる人は迷う可能性があ

る。

大聖寺平から先の登山道は縦走路なので整備されている。

幕営可能個所は大聖寺平の東側に下りたところに、かつての岩室の跡が見える。水も得られると聞く。大聖寺平は風が強くテントが飛ばされるが、東側に少しいくと風の来ない個所がある（水は得られない）。

7月14日 天気の崩れが予想できたため、早朝小屋を出て、来た道を戻る。

大聖平から船窪への道は、ペナントベタ打ち

でようやく迷わなくなった。ペナントを打っていない状況では、来るたびに迷うので、この部分で道迷いの遭難が発生していた可能性は高い。

また、広河原へ下る道も「林班境」の標識が出ているテラスまでは、倒木によって派生する尾根に迷い込む可能性は依然高い。今回も一度間違えて登り返した。この部分で道迷い遭難の可能性はある。

小渋川は水量が多くなければ徒渉の労をいとわなければ来るときと同程度の労力。雨が降るとすぐに水量が増し、逆に引くのも早いので、雨が上がるのがわかっていれば広河原小屋でステイするのがセオリーだ。

今回、赤石岳避難小屋で、雨天時に三伏峠を経るように３万を貸して送り出したものの、結局広河原に下り２人のうち１名が亡くなる事故があったと聞いた。生き残った一人は、広河原小屋で下山が困難なことがわかったが、登り返す余力もなく、結局下って流されたことがわかっている。車や登山期間の問題もあり、安易に入山してはまった典型的なパターンと言える。

静岡側の登山口の条件がリニア工事でアプローチが遠くなっているので、どのように登山者を誘導するかは大きな課題。

課題）

・林道の復旧

・小渋川迂回ルートの復活（多少の徒渉はあってもいいが、全部徒渉するのは、一般登山道としてはハードルが高すぎる）

・上記の点とも関係するが、どの程度の力量を持った登山者を入れるかを決める必要がある（ガイド利用の誘導も含め）

・広河原小屋の維持（遭難防止に欠かせない小屋であり、文化財的価値もある）

・広河原から大聖平までの大量の倒木の撤去

・大聖平手前の灌木の切り払い

・幕営可能個所を周知するかどうかを決める（国立公園内のため原則禁止）

・荒川小屋、赤石岳避難小屋と連携し、小渋川の増水情報の連絡体制を構築する（下山不能の場合は迂回や別ルートへの下山を誘導）

・もともと入山者数が少ないルートなので登山者の入山の把握をどこまでするか決める